

## 日野の自由民権運動の先駆者森久保作蔵登場の背景

明治14年（1881）1月、原町田村（町田市）で石坂昌孝の主催による武相懇親会が開催された。地域の政治活動であるこの懇親会に日野市域から日野宿の日野義順、豊田村の今井匡之、三沢村の土方円の3人が参加していた。日野義順は日野学校の校長、今井匡之は教育者、土方円は元学校世話役の要職にあった人たちである。

このように民権運動の当初の関係者は、数こそ少ないが日野市域全般にわたっていた。この後、旧七生地域の三沢、程久保、高幡、南平、平山、落川、百草では柚木地域（八王子市）の影響を受けて民権運動が広がっていった。この七生伝播の役割を果たしたのは、三沢村の土方啓次郎であった。そこでまず柚木地域の民権運動の動向を眺めていこう。

明治14年9月21日、この日柚木地域において初めての懇親会がおこなわれた。場所は堀之内村（八王子市）の保井寺（ほうせいじ）で、当日は連日の雨で道路はぬかるみの中であったが50余人が集結した。会する者は柚木地域とそれにはるばる野津田村（町田市）から3人、石坂昌孝、村野常右衛門、石坂儀右衛門たちが参加していた。会の責任者は林副重を中心に鈴木良ら6人であった。荒天にも拘わらず石坂昌孝や村野常右衛門らが参加したことは、この会に石坂や村野の期待が込められていたことを示している。

14年10月1日、第2回の少人数の懇親会が大塚村（八王子市）の清鏡寺で開かれた。会するものは林副重を主体に8人で、博愛社設立総会の打ち合わせであった。続いて半月後の10月17日博愛社設立総会が和田村（多摩市）の高蔵院で開かれた。ここに政治結社博愛社が柚木地域に設立された。（拙稿「民権結社「博愛社」の創立」『郷土たま』）

実はこの博愛社設立に深く関わっていたのが三沢村の土方啓次郎であった。土方啓次郎の名は林副重、柚木芳三郎とともに「役員・発起人」として資料に登場する。（色川大吉編『三多摩自由民権史料集』上 309ページ）

ところで三沢村の土方啓次郎とはどのような人物なのだろうか。土方啓次郎は明治8年、大区小区制のとき第七小区の村用掛に任命されていた。9年に学校世話役となり、15年から18年にかけて3年9か月間県会議員の要職にあった。

明治14年10月、「明治14年の政変」がおこり、つづいて「国会開設の詔」が出されると、それを契機に自由党が結成された。南多摩郡でも自由党が成立し、七生地域とその周辺の村々では、程久保2、三沢1、高幡1、南平1、落川1、百草1、新井4、石田1、川辺堀之内1の合計13人が入党した。その中には高幡村の森久保作蔵もみられた。南多摩自由党は組織に地域の責任者として通信委員を選び、七生地域とその周辺は土方啓次郎が選ばれた。土方は地域で信頼が厚く、落川村の五十子敬斎は土方の影響で民権運動を理解したと回想録に記している。

のちに日野市域初の衆議院議員となる森久保作蔵の政治活動は、はじめてのスタートであった。明治16年8月自由党本部は講習所の設立をはじめ必要活動資金として「資金十万円募集」を発表した。この運動で奮って資財を投じたのは「神奈川、栃木、茨城の黨員」（『自由党史』）であった。七生地域を主体とした地域でも、土方啓次郎・五十子敬斎100円、平豊太郎・土方貴久次郎50円、その他6人が25円、20円と応じている。ちなみに石坂昌孝は100

円、村野は 150 円、森久保作蔵は 25 円であった。なお、土方貴久次郎の名は、党員名簿にはない。

運動が展開していくなかで頭角を現してきたのは、新井村の土方房五郎であった。それを示すのが 17 年 8 月、板垣退助が多摩に来遊したときである。土方は招待委員に任命された。土方は安政 5 年（1858）生まれで、板垣来遊のときは 29 歳、金融の共融会社の持株 80 株 4000 円でトップであり、明治 23 年から 26 年まで神奈川県会議員を歴任している。

「板垣総理来遊報告」には、次のように記されている。

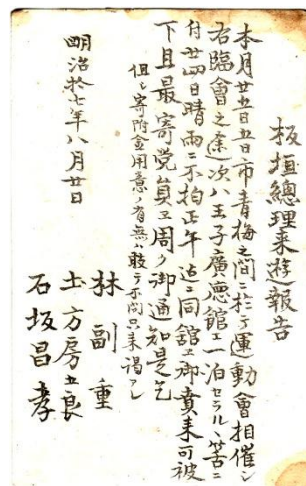
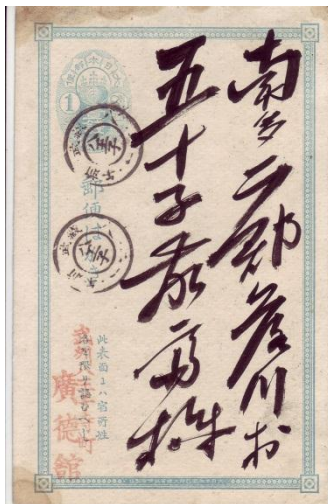
本月廿五日五日市青梅之間ニ於テ運動會相催シ右臨會之途次八王子広徳館エー泊セラル  
、筈ニ付廿四日晴雨ニ不拘正午迄ニ同館エ御賁来可被下且最寄党員エ周ク御通知是乞  
但シ寄付金用意ノ有無ハ敢テ不問只来謁アレ

林 副重

明治拾七年八月廿日

土方房五良

石坂昌孝



「板垣総理来遊報告」（日野市所蔵五十子家文書）

（日野市古文書等歴史資料整理編集委員会委員 沼 謙吉）